（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3370400545		
法人名	医療法人こまくさ会河口医院		
事業所名	グループホームこまくさ		
所在地	岡山県玉野市宇野２－１９－１８		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人　高齢者・障害者生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾２０９－１
訪問調査日	平成23年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

行事・外出・グループワーク、ゆったり我が家こまくさ。スタッフ同士の仲が良い。「今ここで」を大切にお年寄りの気持ちを一番に考え、その人らしく生々と暮らせるようにｻﾎﾟｰﾄしている。家族同士の仲も良く、今年度は家族のバス旅行を行い絆を深めた。勤務年数長いスタッフが多い。毎日の食事作り（利用者と共に）・主役になれることをいっぱい作る。家族も一緒に出かけられるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「今ここで」起きていることが、現実なのか、タイムスリップしたものであるのか、定かではないが、その「今」と「ここ」に向き合い、認め、寄り添う姿勢がスタッフ全員に浸透しており、温かく和やかな雰囲気と、明るい表情に表れています。利用者から教えられ感動することも多く、お互いを思いやり、尊敬し信頼し合う関係が築かれています。近くにある2つのグループホームも加わり、100人集まるという広くはない庭での大運動会をはじめ、各種行事への参加も多く、地域との交流が盛んに行われています。全員参加の外出、OBを含め家族のバス旅行、事例発表もする看取り、毎月発行する10頁にも及ぶ機関紙「ゆったり我が家こまくさ」など、数々の取り組みは注目を集め、11年目を迎え、先進的に認知症ケアに取り組む母体の医療法人をバックに、ますます期待される存在となっています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今ここで」を大切に考え、勉強会やミーティングを通じて理念を解釈・理解し実践できるように努めている。日々の生活や行事・外出等地域との交流をしながら、笑顔で生活できるように取り組んでいる。	物忘れを認め、家庭的な雰囲気で「今ここで」を大切に笑顔あふれる生活をとの理念を拠り所とし、正月に利用者それぞれの今年の目標を掲げ、ミーティングなどで話し合い、実践につなげる努力をされています。	地域密着型サービスとして、利用者のニーズ・事業所の状況などにより、現状に合わせ、理念を具体化してケアに活かす取り組みをさらに進めて行かれることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶を基本として新聞配り、馴染みの美容院やスーパーを利用している。地域の行事に参加したり、事業所の行事に呼びかけをしている。又、外の草取りや掃除という日常的な関わりの中で交流に努めている。	園児・児童との交流をはじめ、地域行事に参加し、事業所行事へ呼びかけ、一人で散歩する利用者の見守り、ゴミ拾い時など、出会いや縁を大切に、普段の何気ない挨拶や顔の見える関係作りを心がけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室・サポーター養成講座・地域の方や専門職への認知症勉強会を始め「こまくさ新聞」通信の配布、民生委員の研修見学受け入れを行う。今年度は10周年講演会をおこない、認知症の啓発・啓蒙に心がけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1～2カ月に1度開催をしている。運営に関して報告をし、問題提議を行い意見を募る。今度の10周年記念行事に対し、記念樹・家族会旅行（OB含め）・講演会・あゆみの提案があり、実行した。	事業所の行事に合わせて、2ヶ月に1回以上開催しており、家族（全員に案内状を送付）・民生委員・地域包括支援センター・行政の相談員等が集まり、報告や話し合いを行い、意見や提案をサービスに繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会が年2回されている。そのうち年1回市が参加される。こまくさ新聞の送付をしており、実状の把握して頂けるように心がけている。市からの相談員の派遣がある。	機関紙を毎月送付し、事業所の様子や状況を伝え、良好な協力関係を築くよう努力されています。介護相談員の派遣を受けており、介護相談員の会議に参加しホームの様子を参考として紹介されたそうです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置している。研修に参加し、勉強会やミーティングで事業所全体で話をする。施錠をすることなく、何が拘束か考え、話し合う取り組みをしている。	玄関の施錠も含め、身体拘束はしないという方針にそって、ミーティングや勉強会でよく話し合い、安全を確保しつつ自由な暮らしを支えるよう、連携プレーや情報の共有、気配り・目配りを心がけている様子が窺えました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会があれば参加し、職員同士で気をつけ、虐待が見逃されないようなチームケアを心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会があるが、全員が理解できていないと思う。入居者の中には利用されている方もおられ、少しずつ学ぶ機会を持つようにしている。自ら積極的に学ぶ姿勢が必要と感じている職員がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長や管理者から必ず説明をしている。また、改定の時には全員に文書と口頭説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料金の支払いを含めた面会時、運営推進会議や行事の時など意見や要望を伺う機会を設け、ミーティングで話し合う。又、代表者に相談しなければならないようなことや報告も行っている。	入所者との会話の中から思いを汲み取り、運営推進会議での家族との話し合い、行事や面会時に直接聞くなどして、出された意見や要望をミーティングで話し合い、運営に反映させるよう工夫しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談で、意見や提案を聞く機会を設けている。それをホーム長や代表者に報告し可能なことは反映するようにしている。できない事は理由を伝える。	毎月のミーティングやホーム長との個人面談で意見や提案を述べる機会が設けられており、管理者が聞いたり、職員同士で話し合いをしたり、代表者へ報告し反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の研修意欲や資格取得に対して支援をしている。資格取得に対し、給与に反映するなど整備に努めている。又、個々の状況に応じて勤務時間や勤務形態を柔軟にできるように取り計らっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修の機会を作っている。又、資格取得に向けての協力体制がある。今年度はキャリア形成事業の利用により、事業所に外部講師を派遣してもらい充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者と一緒に勉強会をしたり、行事を誘い合っている。（運動会・劇団）また、その時に交流している。他の事業所の男性職員のアフターの交流会も行われている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人はもとより利用していたサービス提供者やご家族から情報を頂き、住みなれた自宅に伺いゆっくりした時間の中で情報を得るようにしている。また、ご本人に誠意をもって接し、発信を見流さないようにしコミュニケーションを図るようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に対する不安や葛藤を理解するように努め、納得できるまで話し合うようにする。又、気兼ねなく来訪できるようにして頂き、他者への関わりもみて頂くようにする。ご家族が話しやすい雰囲気や環境設定にも心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで使っていたサービスが必要な時は、入居によって途切れた関係を作るのではなく継続した関係性も大切にしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、教えて頂くことが多い。不自由になりできない事だけに支援をし得意としてきた事を発揮して頂きながら、お互いに同じ時間を活きる仲間として大切な存在関係を築くようにしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族・職員が共に仲間だと思う。ご家族が実家のように思って下さっている方もおられる。お母さんや他の入居者の方と共におやつを作ったりすることもある。最期の時はご家族が一緒に過ごし、職員や入居者の方々で看取りをする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年生活していたところのお祭りに参加したり、お墓参りにご家族と一緒に職員同行をする。また、友人や近所の方々に会いに行ったり、来られることもある。又、電話でのやり取りがあったり一緒に外食する事もある。	80歳過ぎの友人が手押車で会いに来てくれたり、電話でのやり取り、友人と共にする外食、地区の祭りや行事への参加、家族と共にお墓参りに職員が同行するなど、馴染みの人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所や相性その時の状態等に配慮し、職員が橋渡しをしながら、スムーズな関係性が保てるようにしている居間とは別の場所や散歩も良い関係性を作れるように思う。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こまくさ新聞を送付したり、行事の声かけを行っている。また、退去後も相談に来られることもある。今年度は家族会旅行に行った。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やつぶやきの中からご本人の気持を汲み取り、「その人らしくとは…」を話し合うようにしている。安全や気持ちやご家族の意向等その時を大切に話し合いながら、検討している。	入所者自身の今年の目標を掲示し、日頃の様子を観察し、会話の中から汲み取り、また家族からの聞き取りなどを通じて、思いや意向の把握に努め、気づきを書き止め、話し合い検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話（情報）やその後の信頼関係ができてからのことも含め解ってきたことを書きたしながら全員で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、また、赤ファイルの活用を行っている。また、医療職との連携により、その方の状態や力についても把握する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の希望を取り入れながら、それぞれの担当が日々の記録と照らし合わせ修正をする。それをミーティングでみんなの意見を総意の物として、色々な情報を持ち寄り、検討する。最終的にケアマネージャーが書類作成し、再度職員が常に見える状態にする。	本人・家族の希望を重視して、現在のプランをもとに、スタッフが気づきや意見を書き込み、ミーティング時にケアカンファレンスを行い、みんなで検討して新しい計画を立て、定期的にモニタリングを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にケアにもとづいて記録する事になっている。赤ファイルの活用をしている。また、より活かせるようにする為の検討をしているところである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊やこまくさからの一泊旅行、個別での外出をしている。その都度出たアイデアは上司に相談し、他職員やご家族・主治医に指示を受けながら適正に実施できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや日々の買い物や散歩等当たり前の生活の中にこそ豊かな暮らしがあると思う。また、グループホーム自体が地域の資源であると考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族、主治医に相談しながら、適切な医療が受けられるようにしている。又、かかりつけ医に相談しやすい関係性を作るようにしている。そのことで、休日や夜間に相談し、指示や指導を受けることができてきた。	家族の協力を得ながら、重度者であってもリフト車を利用するなどして、すべての利用者が受診のための外出をしており、かかりつけ医との関係を大切にして適切な医療が受けられるよう支援がされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が1週間に1回訪問、外来看護師がほぼ毎日様子を見に来ている。又、事業所の看護職員と連携を取りながら情報提供して、介護職が安心を得た中での気付きや相談ができる体制作りをしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より付き添い、担当医や担当看護師・MSWなどと連携をとるようにしている。入院中にも情報を得ながら、スムーズな医療が受けられ、早期退院に向けての協力に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時に看取りのアンケートを取っている。その時に事業所の方針やできることを話す。又、ご本人やご家族の意向はかかりつけ医に報告し、必要な状況に対し戸惑うことがないように支援に取り組んでいる。	多くの看取りを経験し、感謝の手紙が寄せられています。重度化した場合や終末期の対応について、契約時だけでなく、年1回アンケートを取って意向の把握に努め、さらに利用者・家族の揺れ動く思いや状況変化に合わせ、その都度関係者で話し合いが持たれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回消防士による救急法の講習を受けている。また、マニュアルもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団に協力をして頂きながら、避難訓練をしている。また、他の事業所の受け入れも行っている。(水害)	地域の消防団の協力を得て避難訓練を実施しています。浸水時には水かさが増して避難所への移動が難しく、認知症という特性から混乱を招くこともあり、設備の整った事業所の3階部分を活用しています。今年は近くの他事業所からの避難者を受け入れたそうです。。	いつ何時どのような災害が起こるかわかりません。警察・消防・家族はもちろんのこと、特に夜間等すぐ駆けつけることのできる近隣を巻き込んでの訓練が望まれるところです。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊敬の気持ちを忘れずにその都度その状況に応じた声かけや対応をする。また、羞恥心に配慮した、排泄や入浴の介助を考えている。（異性職員の対応）全員の職員ができているとは思わない。課題である。	人生の先輩として尊敬し、一人ひとりに向き合い、動きを察知し、さりげない言葉かけや対応に努力されています。特に排泄や入浴時には羞恥心に配慮してできるだけ同性での介護を心がけています。	課題であるとの自己評価であるので、今一度全職員で話し合って、課題を共有してください。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に応じた声かけや分かりやすい表現をし、自己決定ができるように働きかけをしている。例えば選択肢を少なくするなど。 又、ゆっくり関わりの持てる時間を作るようにしている。入浴時も大切な時間。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大切にその方のペースで生活できるようにと常に考えているが、どうしてもすぐにはできない時には、できない理由を伝え、早くできるように体制作りをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ・白髪染め・カット・お化粧はもちろんのこと、一緒に洋服を買い物に行き、楽しむこともある。スカートやワンピースの方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、一緒に手伝いをして頂く。味見や盛り付け御膳拭きやテーブル拭き等その方ができる参加の仕方がある。又、できなくなっても、「おいしい」の言葉や表情を職員が言葉にして表現して、伝えている。	柿の皮をむいて切り分けたり、盛付・配膳・後片付けなど、利用者の力を活かした取り組をされています。おみやげでいただいた生姜入ご飯の味付けなどに、話に花が咲き、刻み食の人も同じ食卓を囲み楽しそうでした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好物や色々な選択ができるように品ぞろえをしている。又、ゼリーやヨーグルトなどでの水分補給をすることもある。時にはノンアルコールビールの事もあった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕はかならず口腔ケアを行っている。昼は、義歯洗浄やうがい程度の方もある。一人一人に応じた口腔ケア用品を使用している。緑茶うがいも施行している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを全員が使用している。排泄表を活用しながら、パターンを把握するようにしている。夜間自立でのポータブル配置を行ってみるなどその方の状況に合わせて相談しながら実施している。	入居時オムツ使用の利用者も、排泄表を活用してパターンを把握し、布パンツに変えることに成功し、全員布パンツを使用してトイレ(夜間はポータブルの人もある)での排泄ができているとのことです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物での工夫をしている。繊維の多い物や朝の牛乳・ヨーグルトや乳製品・大麦若葉にバナナや豆乳のジュースを飲んでいる。また、運動できるように取り組んでいるが意欲を向上させることが困難である。又、重度の方の運動は難しい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	失禁時や朝昼夜間入浴とその時の状況にできる限り合わすようにしている。また、希望で夜間入浴の方も増えてきた。全介助の方は、人手の多い午後入浴にしているが、できる限りその方の習慣を活かし時間の調整をしている。	希望に添えるよう、毎日風呂を沸かし、失禁時にもすぐ対応できるようにしています。夜間希望の方には職員の遅出で対応し、入浴拒否の方には入浴後の水分補給もかねて、ノンアルコールのビールで誘うなど工夫されています。重度者には昼間2人で対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や体調に合わせ休息を取るようにしている。又夜間の就寝前の足浴や室温調整布団の調整などに配慮している。又、夜間深い睡眠が取れず朝方に眠れている時はゆっくり起床するなどできる限り体調をこわさないよう、精神的に落ち着けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書で確認をしたり、薬の勉強会に参加する。また、インターネットで詳しい情報を得ることもある。服薬困難時の対応については、かかりつけ医や薬剤師に相談することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意分野を活かしながら、できる力に合わせ役割を持って頂く。散歩やドライブ等行っている。飲酒を楽しむ方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・日帰り旅行・一泊旅行・季節行事を始め、結婚式・結婚式の写真の前撮り・葬儀や法事の参加など職員と一緒に参加する事もある。また、墓参り等の支援もする。	買物・散歩・通院など日常的な外出のほか、季節の行事への参加・外食・ドライブ・旅行、冠婚葬祭や墓参りに同行するなど家族の協力も得ながら、一人ひとりの希望にそってよく外出しておられます。全員で外出する事もあるそうです。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理して使っていることもある。又、職員と一緒に使えるように配慮する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由な通信は当然な権利であると思う。電話をしたり手紙を書いたりの支援をしている。これは日常的なことである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり嗜好は違うが、できるだけ色々な空間が選択できるように配慮している。少し隠れた場所や衝立の利用、カーテンや夏場のグリーンカーテンを入居者が利用している。季節に応じたちぎり絵や作品等展示もしている。また、雑音になるTVの音は必要ないと思う。一緒に楽しむための道具であると考えている。	運動会の仮装大会の写真が貼られ、利用者の作品展示もあり、オール電化の台所と一体のリビングは調理しながら目が届き、ソファーや畳があり、くつろいだ空間となっています。テレビはみんなで見る時以外は消しており、その分対話が生まれています。夏場はゴーヤを育て、グリーンカーテンとして利用し、収穫を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようにソファーを配置し、談話コーナー等少し離れた場所でしかも寂しくない場所の利用ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や写真を持ち込み、お仏壇やお位牌を持って来られた方もある。タンスやこたつの持ち込みもあった。夏場の扇風機など利用もあった。	和室と洋室があり、家族と相談しながら、思い出の品や写真、仏壇や位牌、たんすやコタツ、扇風機、ミシンなど好みのものを持ち込んで配置し、それぞれ過ごしやすい工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札が見えやすい位置に貼ってある。気になる方にはない。又、トイレなどの表示もある。ポータブルトイレの利用もある。		